

地域	病 院 名	H29. 7. 1						R7. 7. 1						(参考) コロナ 病床 R3. 12 現在	再検証の内容（H29. 7時点からR7までの対応）					病院側の考え 【病院プロフィールシートを参考に、病床（規模等）及び医療機能（主に再検証の観点）について記述】	県の考え （再検証の確認結果と求められる医療機能等） 【平成２８年度調整会議資料なども参考に整理】
		合 計	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	休 棟 中	合 計	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	休 棟 中		再編、 統合	減床	転換	調整中	見直し なし		
津 軽	弘前大学医学部 附属病院	597	597					597	477	120				9					○	病 床：規模維持（高度急性期の一部を急性期に変更） 医療機能：救急の領域やへき地医療支援の領域も引き続き担う	・再検証として、「見直しなし」は妥当 ・大学として教育、研究、医師派遣等の機能を引き続き担う
	国立病院機構弘 前病院	342		342				442		442				21	○	急100				病 床：増床（再編・統合） 医療機能：新中核病院として、心疾患、救急、小児、災害の領域も引き続き担う 脳卒中、へき地の領域については、連携等により対応	・再検証として、再編・統合による医療機能集約は妥当 ・新中核病院整備後は、引き続き二次救急、高度医療、若手医師の育成等の役割を担う
	弘前市立病院	250		214	36			0						4	○	急▲214 回▲36				令和３年度末で廃止	
	黒石病院	257		257				257		227	30			2		急▲30→回				病 床：規模維持、転換（今後） 医療機能：がん、心疾患、脳卒中、救急、小児、周産期の領域も引き続き担う。	・再検証として、「転換」は妥当 ・病床規模の見直し及び回復期機能への転換等について引き続き検討
	板柳中央病院	87		55		32		80			48	32			急▲7	急▲48→回				病 床：減床、転換 医療機能：救急、研修・派遣の領域も引き続き担う	・再検証として、「減床・転換」は妥当 ・更なる病床規模の見直し及び回復期機能への転換、コロナ対応等について引き続き検討
	大鰐病院	60		60				19			19					急▲41	急▲19→回				病 床：診療所（Ｒ５．１月開業予定）として縮小（減床、転換） 医療機能：がん、心疾患、救急の領域を縮小 脳卒中の領域は、廃止

注 黒字は実施済み又は実施中、赤字は今後実施

参考）高度急性期機能及び急性期機能の病床を有する民間病院

弘前中央病院（174床）、鳴海病院（116床）、弘前記念病院（171床）、健生病院（282床）、ときわ会病院（149床）、脳卒中・リハビリテーションセンター（248床）